



今月も友人と二人で山に入り、雨山峠を越えた。新松田からのバスは「寄」行き、これを「やどりぎ」と読ませるなんてのはいつも思うのだが、違反だと思ふ。何に違反してるか知らないけれど、違反だ！

山は前に来た時よりはずっと整備されていてずいぶん危険が減ったが、あんまり山なれていない人には向かないだろうな。丹沢の西の方は本当に岩がぼろぼろで悪い。歩けない道もずいぶんあるし、谷はどんどん土砂を流し、道を削り、埋めていく。しかしまあ、今回は度歩もしなくてすん

だし下手をするとザイルが必要になるかと持っていたザイルも使わずにすんで良かった。地元の方々の努力に頭が下がる思いだ。山は紅葉が進んでいて「いいな、いいな。」と言いながらも登る。前回ワンカップ片手に歩いていて道に迷って谷に入り込んだ反省から、飲みながら歩くことをやめた。たとえ、酔っ払っても、学習能力はあるのだ。飲みながら歩くことはやめて、飲んでしまってから歩くことにした。

安全な谷に入ってから歩いたり、飲んだり、飲んだり歩いたり、そのまま夜はおでんや、途中で買ってきたサトイモを煮たり、野菜炒めなどを肴に、熱燗などで一晩ゆっくり飲んだ。

翌日は丹沢湖まで紅葉狩りをしつつ、残り少なくなったウイスキーを川の水でガボガボと増やして惜しみつつ飲みながら歩く。途中、不法な罫所破りも、ほとんど木登り状態で、突破。

そんな私達の前を山岳救助隊と思しきミニパト3台が山に入っていた。陽がさしてきた広い河原を、いい気分を下っていくと今度は岩割に隠れて銃包を構えたおじさんに声をかけられて、猪を追っていて、すぐにでもこの河原に出てきたら撃たねばならぬので、目の前をうるちよろしないしてほしいとわかり、こっちだって、猪の代わりに撃たれちゃあつまらぬから徐々に左岸に寄っていくと、また一人、岩陰から銃身を出して隠れているのがいる。仕方がないから、ようやく、左岸に上がり、安全そうな場所で大休止、昨夜の残りのものを食ったり、最後のウイスキーを分けて名残惜しく飲み干して帰ってきた。まあ、天気も良くていい山だった。

いい山だったがこの山で一番気に入らないのが、下山してきたところに冷たく冷えたビールがないことだ。おととしまでは、村の中の小道に入っていた所に酒屋があって、声をかけると、冷えたビールが嬉しそうに出てきたのだがその店ももう閉めてしまった。あとはただじっと耐え忍んでうなだれて、小さく「冷えたビール。」とつぶやきつつ駅へ向かうバスに揺られていくしかないのだ。バスはかすんだ箱根の山陰を大きく見ながら、馬前の立ち食い蕎麦屋の冷えた缶ビールに向かって延々と走ってゆきます。

ブログのアドレス <http://blog.goo.ne.jp/gnomesjp/>

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TELFAX 03 5600 0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com